

秋

三年 小川 玲奈

家の裏から見える山は

色づき始めた

街路樹の葉も

色づき始めた

夏の緑から秋の赤や茶

どの季節の葉も美しく

人の一生のようにはかなさを感ずる

戮力協心

三年 平尾 葉

刹那に終わりゆく夏

私の心またみな的心よ一つになりけり

我を忘れ、一意専心つらぬいた日々

今思へば なつかしき思ひ出

青軍の声勝つ者如かず 悪戦苦闘の戦い今こそ見とどけよ

戮力協心この響き 勝利は我ら青軍に

これで最後

三年 齋藤 愛心

今年よく聞く言葉

「これで最後」

行事がある度たくさんの人が口にする

例年とは違っても

その短い言葉にも

色々な想いがたくさんある

日々の努力

三年 飯野 美玖

ドクドクドク

鼓動が速くなっている

この日のために毎日必死に頑張った
努力は実るのだろうか

結果発表

一瞬何が起こったか分からなかった

嬉しそうにこちらを見てくる友人を目にし

学校賞という言葉が

耳に頭に全身に響いてきた

紡ぐ

二年 渡邊 佳純

初めは弱い繊維だった
完成が見えなくて絡まっていた
でも完成が見えたとき
絡まっていた繊維がほどけて
強い糸になるために
補いながら紡いでいった
糸を紡ぐ音が聞こえなくなったとき
絆という糸が完成した

本当の舞台（ステージ）

二年 瀬戸 優花

一人ひとりの音が聞こえる

焦りと不安を抱えながら

共に切磋琢磨してきた仲間たち

みんながいたからここまでこれた

たとえその舞台（ステージ）に立てなくても

置いてきぼりにされたわけではない

目標（そこ）に向かって全員で前へ進むから

大木になるために

二年 古城 結

中学校生活も半分を切った今
入学した時の小さな芽は

後輩が出来る小さな木となり

共に汗や涙を流すたびに葉をつけ

ぶつかり合い枝分かれし強い木となった

生徒会引き継ぎ式

ずっと私達を支え続けてくれた葉は

赤く染まり空へと飛んでゆく

これからは私達が幹となり支えていく番

大きな大木となり空へ飛んでいくその日まで……

「食欲の秋」

二年 クレブス 理央

モンブラン

たい焼き

柿

秋の味覚を堪能していたら

太ってしまった

やはり何かを得るには

何かを失わなければならぬのか……

変な担任

二年 清水 菜那

2年5組の担任はなんか変
コンパス振り回して指揮者気取り
階段ダッシュで一番遠い昇降口へ
練習で感動男泣き
それなのに
5組の誰よりも
熱血で楽しそう
そんな担任がいたからできた
5組だけの

「青葉の歌」

私の大切なもの

一年 佐藤 芽生

ふるえる手

ピンとはった空気

指揮者が静かに右手をあげた

みんなの歌声が

「大丈夫だよ」と言ってくれているようだった

私はずっと考えていた大切なものが

何かやっとなわかった気がした

音色

一年 栗田 香奈

合唱に色をつけていく

一色一色染めていく

最後の一音が無くなるまで

一音一音染めていく

やっと今

最後の音色を染め終えた

「一つ一つの声」

一年 柴崎 英士

ステージから見る景色は

人が大勢いる体育館

この広い体育館で今

僕達は歌い出す

皆の声はそれぞれ違うけれど

皆の声が三十一色の虹となって

綺麗なハーモニーを作りあげた

秋のパレット

一年 後藤 菜奈

流れていく 日々の記憶
止まることのない時計のよう
金木犀香る涼しい風
紅葉で満ちたいつもの道
夕日輝くオレンジの空
皆のパレットで染めていこう
皆の秋で染まる度
笑顔の輪が広がるから

染色

暑い夏が過ぎるが

夏の余韻、冬はまだかと待ち望む

その間の季節

窓の外は紅く染まり

歌の音色は深く染まる

僕の心も染まり続ける

一年 菅原 惇史

COSMOS

一年 土田 風雅

みんなでいっぱい練習をしてがんばった

みんなで合わせたCOSMOS

とても緊張したけどちゃんと歌えた

最優秀賞を

とることができた

大木になるために

二年 古城 結

中学校生活も半分を切った今
入学した時の小さな芽は

後輩が出来る小さな木となり

共に汗や涙を流すたびに葉をつけ

ぶつかり合い枝分かれし強い木となった

生徒会引き継ぎ式

ずっと私達を支え続けてくれた葉は

赤く染まり空へと飛んでゆく

これからは私達が幹となり支えていく番

大きな大木となり空へ飛んでいくその日まで……

みんなのFFF

一年 高橋 隆哉

汗を流して応援するみんな

一人一人が頑張る体育祭

ここでは みんなが主役

勝って何かがあるわけではない

でも 体育祭はみんな努力をする

だから頑張れる

NO.1が主役ではない

努力するみんなが主役なのだ